

仕事で培ったスキル、経験を活かして

はじめまして プロボノです

「プロボノ」という言葉を聞いたことがありますか？プロボノとは、「専門的なスキルや経験を生かした社会貢献活動」のことをいいます。まだ三重県ではあまり浸透していませんが、例えば弁護士や会計士が団体に助言を行ったり、美容師さんが介護施設に通われている方を散髪したり等々。今回は、まだレアで先進的なプロボノ活動を行っている方をご紹介します！



松原 豊さん (48)

1967年三重県生まれ。東京写真専門学校名古屋校（現名古屋ビジュアルアーツ）を卒業後、写真撮影アシスタントなどを経て「写真家」として独立。雑誌や企業広報誌の写真撮影、母校で非常勤講師を務めるかわら、村を撮影記憶することをライフワークとしている。2011年に「村の記憶」発行（完売）、2012年には「みえの文化びと」に登録、三重県津市文化奨励賞を受賞している。「人との出会い」をきっかけにNPOが主催するイベントの写真撮影や、東日本大震災で甚大な被害にあった、岩手県大槌町の人びとの生活、地域の移り変わりを記録・発信するなど、プロボノとして活動をしている。



☑ お仕事は何をされていますか？

写真家をしています。小学校5年生の時にたまたま写真が製作される現場を見たのがきっかけで、現像の過程とかがすごく不思議で面白かったことから写真の世界に入りました。そこからずっと写真一本です。今は名古屋ビジュアルアーツ専門学校で非常勤講師をしながら、雑誌や企業広報誌の撮影や写真講座ワークショップの講師をしたりしています。

☑ 「写真家」という仕事を活かしてどのようなボランティアをされていますか？

私の場合、団体の中に入って一緒にやっているものと、そうじゃないものがあります。前者では、NPO法人サルシカさん、NPO法人パフォーミングアーツネットワークみえさん（以下「PAN みえ」と略）のイベントの写真撮影やパンフレットの写真撮影をしたりしています。写真ってただ単に綺麗に撮れば良いものではないので、例えばイベントだったらその時の楽しさとか臨場感とかが伝わるようなものでないと意味がないし、それは長い間写真を撮り続けてきたからこそ分かることかなと思います。後者は2つあって、たまたま近所のIT達人に出会って、たまたま私が写真家だったために活動に誘われて、いつの間にか「IT×写真」というテーマで地域のコミュニティづくりをしているということが1つ。もう1つが、半年に1回東日本大震災で被害にあった大槌町を訪問し、そこに住む人とお話をしつつ、人の営みや地域を記録していることです。最初は明確にしたいことがあって行ったわけではなかったのですが、現地の人と話をし、もう明日閉鎖されるという避難所最後の人に出会って、「今の姿を記録する」という形が生まれました。

☑ プロボノ活動を始めたきっかけは何ですか？

たまたま、です（笑）サルシカさんにしろ、PAN みえさんにしろ、IT達人、大槌町、全部たまたまなんです。サルシカさんは私とサルシカの隊長が「移住者同士だった」というたまたまからつながり、PAN みえさんはたまたま演劇を観に行ったことがきっかけでつながり、IT達人はたまたま「IT達人が経営するガソリンスタンドにカメラを助手席に置いたままガソリンを入れに行った」のがきっかけで、大槌町もたまたま震災直後足を骨折していてすぐに現地に行けなかったからこそ、避難所最後の人に出会えました。そこに、写真家という職業が加わって、活動が始まりました。

☑ 松原さんにとってボランティア活動とは？

正直「ボランティアをしている！」という感覚は全くなくて、気が付いたらそうになっていたみたいな感じ（笑）そもそも「誰かのために」「人助けをしたくて」と思ってやっているわけではなく、ただ単純に「楽しい」とか「伝えたい」という感情があって関わっているのだと思います。だからこそ続けられる部分もあると思います。あまり難しく考えすぎると、かえってできないことなのかもしれません。今後も形は変わるかもしれませんが、続けていけると良いと考えています。



志賀 大さん (27)

2011年に昭和大学保健医療学部看護科を卒業。
在学中から「ケアプロ株式会社」でワンコイン健診事業にボランティア参加し、現在はケアプロ株式会社 副部長、一般社団法人みんなの健康 代表理事を務めている。
看護師、保健師の資格をもつ。
東日本大震災時に、「一般社団法人 健診弱者を救う会（現・みんなの健康）」を設立し、東北地域のNPO団体と連携しながら、仮設住宅でのチャリティー健診を実施。さまざまなボランティア活動を行ってきた志賀さんは、三重県松阪市で、一般社団法人 i-oh-j! 代表理事である良雪 雅医師と一次救急専門クリニックの開設に向け取り組んでいる。



☑ プロボノ活動を始めたきっかけは何ですか？

東日本大震災がきっかけでした。自分自身東北出身ということもあり、居ても立ってもいられず、震災発生後すぐに看護師として健康支援を被災地で行うようになりました。その中で糖尿病などの慢性疾患の患者さんが検査を受けられず、疾患のコントロールが難しくなっている方がいることに気づき「（一社）健診弱者を救う会（現：みんなの健康）」という団体を立ち上げ、検査を無料で提供するチャリティー健診という活動を実施していきました。

良雪さんとはチャリティー健診の活動で絡みがあり、今回の件も相談を頂く機会がありました。

☑ 現在どのような活動をされていますか？

良雪さんは団体の顔です。松阪市におけるキーパーソンとの関係構築を行っています。一方で自分は良雪さんが作った関係から、取り組みを具体的に加速させる役割を担っていると思います。例えば、松阪市との関係構築は良雪さんが行い、自分は具体的に一緒に行うとしたらどのような方法があるのか提案実行を行っています。

また具体的に診療所を立ち上げるとなると単純に経営の話も出てきます。資金調達・マーケティング・資材調達・団体運営などをサポートしています。

☑ 活動を通じて得られたことはありますか？

行政と仕組みを作る経験ができたことは大きいと思っています。ステークホルダーもたくさんいるので、その中で全員が納得できるように立ち回っていく経験は今後も生きると思います。



☑ 志賀さんにとってボランティア活動とは？

儲かるか、制度に触れるかではなく、本当に社会に必要なかどうか、ここが自分の中ではボランティアをする時に重要視していることです。「ボランティアができる」ということは社会には必要だけども仕組化していない、ということだと思います。“ケアプロ”の活動も“みんなの健康”も基本的にはボランティアから始まり事業化していたりします。

自分にとってボランティア活動は「本当に社会に必要な活動は何か？」を探す活動でもあります。

プロボノ活動をはじめのきっかけはさまざまだと思いますが、この活動を通じて得られるものは多いのではないのでしょうか。社会貢献、個人のスキルアップ、豊かな人間関係の構築…。

企業だけでなく、NPOにとっても専門の知識や経験を持った人たちはとても貴重な存在。

自分のスキルや経験を活かしたボランティア活動を試してみる！という考えを是非取り入れてほしいと思います。